

2017年度 男女共同参画授業実践

①仕事や分担に係る実践

②職業や進路選択に係る

【小学校】

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
1	1	生活科	①②④	あきであそぼう	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然物を使ったゲーム作りの際、男女で組を作り、それぞれのアイデアを生かしながら製作活動を行った。 ・男女の区別なく、つくりたいおもちゃが同じ者同士がチームをつくり、協力して計画、作成をした。 ・段ボールカッターを使いこなせる男子が、ほかの児童にやり方を教える等、互いの得意なことを生かして作業していた。 ・どんぐりを使った店を考える授業で、服屋、アクセサリー屋をやりたいと言った男子がいた。性にとらわれず、自分のやりたいお店をやってよいことを伝えた。
2	1	生活科	①④	みんなのここに大作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・男だから～の仕事、女だから～の仕事というように、性別で決まった家事分担をするのではなく、それぞれが協力して、出来ることを行っていることに気づかせる活動を行った。 ・自分の家族が家でどんな仕事をしているか考え、自分でもできることはないか考えた。その際、男女による役割分担をするのではなく、性の違いにとらわれずに手伝いができるよう促した。
3	2	生活科	④	学校案内	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生とペアを作って特別教室を案内する計画を立てる時に男女関係なくチームを作った。 ・男の子だから女の子だからと区別することなく、誰が相手でも、聞き手がわかりやすい案内の仕方を考えた。
4	2	生活科	④	おもちゃランド	<ul style="list-style-type: none"> ・男女混合グループで行った。 ・男女の違いを意識せず、グループで協力しておもちゃ作りにとりくんでいる。
5	1	学活	①④	係活動、給食当番	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容や役割分担については、男女関係なく、とりくませた。性別を意識することはなかった。
6	1	学活	④	ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> ・男女関係なく、互いのよさを認め合う活動を行った。自己肯定感高めるとともに、男女仲良く楽しく活動する学級をめざす。
7	2	学活	①	班決め	<ul style="list-style-type: none"> ・班を決めるときに、どんな決め方がいいのかを話し合う活動を通して、男の子と女の子が一緒になる大切さを気づかせていくことをねらった。

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
8	2	学活	④	大切なからだ 大切ないのち	<ul style="list-style-type: none"> ・目標…自分の命や健康状態に関心をもち、よりよい生活のために必要なことをみつけ、自分で考えたり友だちと話し合ったりする活動を通して、生命誕生のしくみを理解したり、命の尊さや家族・友だちの存在のありがたさを感じとったりする。 ・体の名称を確認する中で、男女の違いに触れて、「一人一人の体はこの世の中のたった一つしかない大切なもの」として、気づかせた。
9	2	図工	③	作品の台紙選び	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の台紙を複数の色から選ぶとき、「ピンクは女子の色だから」とつぶやく子がいたので、色は作品に合わせて選ばば良いこととあわせて、色に男子の色、女子の色の決まりはないことを伝えた。
10	3	学活	④	「がんばり賞」をおくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・男女混合の班で、自分以外の友だちの良いところ、がんばっているところを付箋にかいた。 ・みんなからおくられた付箋を合わせて賞状にし、名前をつけた。その人らしさを大切に、その人のよさを認め合う学習を行った。
11	3	学活	①	仲間に入ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なグループを作ったり、仲間に入れてもらうロールプレイを通して、男女分け隔てなく活動する楽しさや大切さを学んだ。
12	3	学活	①	学級の仕事をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・体育係や音楽係など、男女で分けられていた係の男女差をなくして、分け隔てなく協力して仕事をするようにした。
13	3	学活	③	花のアーチのための花を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を送る会の準備として、3年生は花作りを担当したが、7色の花作りを行う上で、男女混合で2人組で色を選択した。色の印象にとらわれずに、協力して作ることができた。
14	3	総合	④	お母さんの入院 家の仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・家の仕事は家族全員で協力して助け合うことの必要性を話し合った。
15	4	学活	①	健康観察	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動を決める際に、体育係も女子がなっても良いし、保健係は男子が行ってもよい等、仕事や役割を担うことは男女で同じことを学んだ。
16	4	学活	①	家事の担当はだれ	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳「お母さんの請求書」の授業で、家事について話をした際、「家事はお母さんのやること」と言う児童が多かったため、学活で「家事は誰がやるべきなのか」について意見を出し合った。
17	4	学活	①④	男女について考える（ペープサートをみて思ったこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートをもとにした劇を見せて、感想を出し合い、男女はどうあるべきか考えた。 ・参観会の場で行い、保護者も一緒に考えていただいた。
18	4	総合	①	みんなが幸せになる学区	<ul style="list-style-type: none"> ・目の不自由な方をきっかけに、みんなが幸せになる町とは何かを考えた。障害のあるなしだけでなく、子ども、お年寄り、男女、それぞれの立場で幸せになる町について考えた。
19	4	総合	①④	福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふだんのくらしのしあわせ」のため、みんなで助け合って生活することについて意見を交わした。

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
20	4	学活 (学年 集会)	④	学年集会 テンション マックススク ラム集会	・和田島自然体験教室に向けて、 男女の壁を乗り越えて、仲間として協力しあっていこう という目当てで、男女で組むゲームやフォークダンスを子ども同士で教え合い、学年で楽しみながらやり方を学んだ集会となった。(企画・運営も子どもが行う)
21	5	家庭科	①② ④	自分の家の中 での仕事	・男だから外で働く、女だから家事をするのではなく、 それぞれの得意なことや時間のことを考えて仕事の役割分担をすることや、自分のできることを増やすように仕事を体験すること を学習した。 ・家の仕事調べをすると、多くの家庭は「母のやっている仕事が多い」という気付きだったが、家事は、 できる人がやっていることにふれ、まとめる時の主語は「お母さん」でなく「家の人」という言葉にした。 ・父親が家事でやる場合もあることや、女の人が力仕事をする場合もあることをとりあげ、 男女で協力していくことが社会の中で大切なこと を学習した。 ・家庭の仕事について学習した際に、男女関係なく 家族の生活スタイルに合わせて役割分担することの大切さ に触れた。
22	5	総合	①④	朝霧野外活動	・男女混合の活動班をつくり、 自分の個性を生かすことができる係につき(男女の違いではなく) 、協力して困難に立ち向かう経験をした。
23	5	総合	①	自分の生き方 について考える	・地域で働かれている人の実態を調べることを通して、 男女関係なく、能力に応じて与えられた仕事をこなしていること を学習した。
24	5	総合	④	共に生きる	・パラリンピックにとりくむ障害者の方の生き方を学ぶところから入り、 世の中にいる赤ん坊、お年寄り、男女差別することなく同じ人の仲間として、どう力を合わせていけばよいのか 考えていった。
25	6	家庭科	①④	工夫しようお いしい食事	・家や地域での役割について、 男女の役割ではなく、家族の一員として、自分の役割を考えた。 ・調理実習を行い、家族に食事を作ろうとする意欲、態度を育てた。
26	6	社会	①② ③④	わたしたちの 生活と憲法	・基本的人権の尊重で、 男女平等がまだ守られていない場もあることを確認した。
27	6	学活	①	運動会に向け て	・団長を選ぶ際、男子だからということではなく、 役割を果たせる、また意欲によって選出されるよう 選び方を徹底した。
28	6	総合	②	「ドリーム マップ」をつ くろう	・自己分析から、 本当に自分が好きなもの、自分らしさについて知ることで、周囲を気にするのではなく、自分がやりたい将来の夢について考えた。
29	6	総合	②	働く人たち こんな職業に つきたい	・学区に住む、様々な職業の方から、その職業の魅力を聞いた。 性別問わず男性も女性も活躍していること を学んだ。

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
30	6	総合	①	自分らしく生きよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファシリテーターズ静岡」の方を講師で招き、職業・家事など、ジェンダーバイアスにとらわれず、お互いの違いを認め合うことを目的に授業をすすめた。 ・講師と教員が劇をする中で、気づいた偏見や差別について話し合い、子ども自身にも偏見があったことや、男女で決めつけなくても良いことに気づくことができた。
31	6	総合	④	修学旅行アトラクショングループ作り	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的で楽しむなら性別にとらわれなくても良いという話し合いのうえ、「男子グループ」「女子グループ」「男女グループ」の3つができた。 ・必ずしも男女の良さだけを押しつけない思春期の初期の子ども達の考えが旅行を楽しいものにした。
32	特別支援	学活 図工	③	好きな色	<ul style="list-style-type: none"> ・「男の子だから〇〇色が良い、女の子だから〇〇色が良い」という考えをもたず、男女関係なく、自分が好きな色を自由に使うのが良いことを学んだ。